

## 最優秀賞（小学校1・2年生の部）

みんなのためにできること

（課題図書：ジェンと星になったテリー）【感想文】

笠間市立笠間小学校 2年 <sup>すずき</sup>鈴木 <sup>のぞみ</sup>希実

この本を読んで、テリーがジェンに言った、「できないんじゃない。やらないんだ。」という言葉に、ぼくはびっくりしました。ぼくが、いつも言われていることとははんたいのことだったからです。

ぼくは、四人の兄弟の中で、一番やんちゃだと言われます。学校から帰ると、しゅくだいの前に外に遊びにいつてしまいます。おばあちゃんが止めても、お母さんにしかられても、楽しくてやめられません。けっきょく、遊びが終わってからしゅくだいをしたり、習いごとのれん習をしたりしていると、つらくなってないてしまうこともあります。

「やればできるんだから、できることは、ちゃんと自分でしなさい。」と言われても、そのときしたいことは、どうしてもしたくなってしてしまいます。

ぼくは、テリーが言った「やらない」は、どんなことなのか考えてみました。ほんとうは、テリーだっていやだなと思うときがあったと思います。まてをしたくなかったり、ドアをあけてみたかったりしたのだと思います。それでも、テリーがいい犬だったのは、みんなにめいわくをかけるのがいやだったし、みんながよろこんでくれるのがすきだったからだと思いました。

ぼくも、字のれん習をとてもていねいにしていたときにほめられたことがあります。なんどもかいているうちに、えんぴつをもっていた手が、まっくろになっていました。上手にかけたときにはみんながめを丸くしてびっくりしながら、うれしそうにしていました。それをみると、ぼくもうれしくなりました。きっとテリーもみんなのうれしそうなかおをみてまんぞくしていたのだと思います。これから、みんなをたくさんえがおにできるように「できるけど、やらない。」ことができるようにしたいです。